

退職して思うこと

本田 清

新型コロナウイルス（COVID-19）の影響で、日々これまでになかったようなご苦勞をされていらっしゃるのではと思います。私は、この3月に定年退職となりましたが、通例では最終講義をおこない、記念祝賀会等を設けていただくこととなりますがまさにこの影響を大きく受け、一連の退職行事のほとんどが中止となり、非常に残念です。現在では春学期の授業は全て対面講義になっており、研究室の学生の登校も許可されているようですが、これからも警戒態勢が高まる可能性が危惧され現役の先生方のご苦勞は如何ばかりかと心配しております。

私は、昭和54年に応用化学科を卒業し、昭和56年修士課程を修了後、企業に就職しました。その後、昭和63年に工学研究科博士課程後期物質工学専攻に入学、平成2年に修了しました。学生時代は佐藤菊正先生、井上誠一先生、宮本統先生に師事し、博士号取得後は新設した井上先生と浅見真年先生の研究室に助手として迎えていただきました。井上先生がご退職された際に環境情報研究院に移籍し、30年間本学に在職致しました。学生時代は昭和、教員時代は平成の時代に横浜国立大学で過ごしたことになり感慨無量です。そして退職する令和の大変な時期に研究室のかたづけや不要薬品類の廃棄・整理等を手伝っていただきました星野雄二郎先生にはあらためて感謝申し上げます。

天然にみられるテルペン化合物や海洋天然物に多く存在する含酸素多環式化合物やアルカロイドの様な含窒素多環式化合物の様々な生理活性や生命を支え、人間の生活を豊かにする機能性に魅了され、香料や創薬化学の合成研究に携わることができました。今後も有機合成化学分野の更なる発展を期待しております。



科学技術の進歩により、宇宙旅行も可能になり、国内外の社会情勢もめまぐるしく変化し、溢れる情報に混乱する時代です。医療の分野もワクチンや治療薬等の社会ニーズに伴い、多様化・多彩化し続けています。この不透明で難解な時代において必要とされるものは柔軟な考え方、体力そして良い仲間とのネットワークによる情報交換が重要となります。大学で学んだことを財産として問題意識を持ち、解決策を導き、常に前向きで人生100年時代を歩んでいくことが大切であると実感しています。そのため自己研鑽を重ねつつ自身を育むことが肝要であると思います。今後は新種の病気に対応する医療関係の研究開発や“SDGs”等の世界的規模での取り決めが私たちの人生に大きく関わってくるものと認識し絶えず見聞を広げ、柔軟かつ真摯に生きて行くことが大事だと思うのです。終わりに、皆様が自分の歩むべき道を仲間達と共に着実に進まれることを祈念して「前途遼遠なれ」のエールを送らせていただきたいと思ひます。

みなさまのご健康と更なるご発展をお祈りいたし、挨拶文とさせていただきます。